

活動報告書

報告者氏名：掛田 和久 所属：茨城県立水戸特別支援学校

記録日：2014年 2月21日

【対象児（群）の情報】

・ 学年

高等部2年 男性

・ 障害名

脳性小児麻痺による移動機能障害

・ 障害と困難の内容

移動の際には、杖を使用して歩行している。体のバランスを保つことに困難さがあり、歩行中にふらつくこともある。また、イスに座っているときの姿勢が崩れてしまいがちである。加えて、見ることに困難さがある。視力に左右差[右)0.06→矯正0.7 (左)0.4→矯正0.7 近視性乱視]があることから、勉強をするときなど注視しなければならない場面では、対象物に対して右目を近づけるようにし少し斜めに見ることで焦点を合わせるができる。そのため、対象物を見やすい距離にする、拡大するといった配慮が必要である。

【活動目的】

・ 当初のねらい

- ①学習面・・・パソコンの技能を生かして、就労を目指している。事務職を希望しており、事業所で求められる学力を身につけることを目標に漢検の学習に取り組んでいる。昨年度漢検3級を受験したが、惜しくも不合格であった。苦手としている、類義語対義語等の学習において、アプリを利用することで効率よく学ぶことができるようにする。
- ②生活面・・・いろいろな行事の役員や、学年委員を積極的に引き受けるなど意欲的だが、それぞれの活動が多く、自分でスケジュールを把握しきれていない。カレンダーやリマインダーなどのアプリを使いこなしてスケジュールを自己管理できるようにする。
- ③将来に向けて・・・地元の中学校に通っていたころは、何事にも自信がなく、消極的に学校生活を送っていた。しかし本校に来てから、リーダーシップを発揮して、人前で話す機会も増えてきた。人とかかわる力をさらに身につけられるように情報を発信する機会をもち、自信をつける。

・ 実施期間

2013年5月中旬から2014年2月14日まで

・ 実施者

報告者本人

・ 実施者と対象生徒の関係

副担任をしている。授業は、数学3時間、作業4時間、職業4時間、情報2時間などを担当している。

【活動内容と対象児（群）の変化】

・ 対象児（群）の事前の状況

- ①学習面・・・昨年度まで、漢検の勉強といえば、ノートへ繰り返し記入し、暗記するという方法で学習を進めていた。これにより、漢字の読み書きの正答率は、80%以上であった。しかし、

類義語対義語、四字熟語の正答率が低かった。また、画数の多い漢字において、一画多い字形で覚えてしまっていることがあった。

②生活面・・・学年委員や、寄宿舎の自治役員など何事にも積極的に取り組んでいる半面、資料作成や宿題の提出などスケジュールが煩雑になってきていた。

③将来に向けて・・・プロ野球が好きで、以前よりテレビや新聞で得た情報をノートに手書きでまとめることを趣味にしていた。これを知っていた担当の寄宿舎指導員から、この情報を元に情報発信ができれば、社会とのつながりのきっかけになるのではないかという提案があった。

・活動の具体的内容

①学習面・・・「漢検何級？」

というアプリを使用した。①正解がすぐわかる
②合格不合格の履歴が残り達成

図：1 成績閲覧



感がある(図:1) ③間違えた漢字の復習が容易にできる、といった点で効率よく学習に取り組めるのではないかと考えた。また、今まで通りのノートによる反復練習と並行して行うことで、より効果が上がるのではないかと考えた。



図：2 調べ学習



図：3 字形確認

主に国語の授業と寄宿舎での自習時間に学習に取り組んだ。漢字の書き取りについては、今まで続けていた通り、ノートによる反復練習を行った。画数が多く字形が認識しにくい漢字は、アプリを使用しながら字形を確認するようになり、調べる習慣が身についてきた。また、熟語や四字熟語など使い方や意味なども合わせて学びたい内容については、アプリでの学習を中心に学習した。(図:2, 図:3)

②生活面・・・「カメラ」「カレンダー」「Evernote」などのアプリを組み合わせることで、
①日々のスケジュール管理②清掃分担表、グループ編成などの記録、ホームルームの板書の記録など備忘録としての活用ができるのではないかと考えた。

①スケジュール管理に関しては、標準アプリ「カレンダー」を使用した。行事の予定や日課変更、授業の持ち物など、休み時間や放課後に入力するようにした。(図:4)

②備忘録として、「カメラ」「Evernote」を使用した。清掃の当番表、体育のグループ編成など掲示物やプリント等で持ち歩きたい情報をその都度記録するようにした。また、ホームルームの議事録をノートに書き写す際には、ホワイトボードの板書を撮影し(図5)、拡大機能を利用することで、見やすい距離・大きさを文字を確認することができるようになった。



図4： 入力の様子

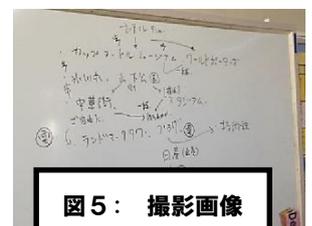


図5： 撮影画像

③将来に向けて・・・①「Livedoor ブログ」のアプリを使用して、ブログを始めた。(図:6) ログインの仕方が



簡単で、投稿する際にも入力の方法が簡単なこのアプリを使用した。インターネット等で得たプロ野球のニュースを中心に更新をしている。また、ブログを始めたことをきっかけに、情報の授業でも情報モラルについての学習を取り上げ、ネット社会について考える機会となった。

②地域の高等学校との交流会の実行委員になった際に、自分達でビデオを撮り学校の紹介をしたいと申し出があった。そこでビデオ編集をするため「iMovie」を使用した。



(図:7) 他の実行委員や生徒会の生徒と紹介したい内容を考え、協力しながら撮影を行った。タイトルの入力や動画の並べ替え、BGMの入力など、直感的に操作していくうちに、コツをつかむことができた。自分達の手で作ったPRビデオが、交流会で実際に流れ、(図:8) 相手校の生徒から「学校の様子がよくわかった」といった感想を聞き、自信をもったようである。

・対象児（群）の事後の変化

- ①学習面・・・漢字の反復練習はノートで行い、字画や字形、意味などを確認しながら学習したいものは、アプリを使用して学習を進めるといった使い分けのスタイルが身についた。これにより、以前よく見られた、一画多く書いてしまう間違いがほとんどなくなった。効率よく覚えることができ、意欲の向上にもつながっている。今年度当初は3級が目標であったが、7月の段階で合格圏内の成績を上げることができた。7月より現在まで、準2級の問題に取り組んでいる。
- ②生活面・・・①「カレンダー」を使用しているスケジュール管理については、iPad 導入当初は関心も高く、タイピングの練習にもなっていた活動であった。しかし、通知機能があり予定も見やすくなるといったメリットがある反面、入力に時間がかかるため気づいた時点ですぐ記録ができないというデメリットが優先され、2学期以降利用することがなくなった。
- ②備忘録としての使用については、導入当初検索のできる「Evernote」を薦めた。何度か操作方法について説明をしたのだが、定着には至らなかった。しかし「カメラ」機能は生活のあらゆる場面で活用している。板書の撮影をし、文字や図を見やすい大きさ、距離で見ることが習慣として身につけている。体育のグループ編成や部活動の予定など後で見返したいものを記録するという使い方も定着している。
- ③将来に向けて・①ブログによる情報発信であるが、アプリを使用することにより操作が簡単なので時間を見つけては、投稿していた。クラスや寄宿舎の友人達にブログの紹介をする姿も見られ、「発信」することを楽しんでた。また、情報モラルの授業では、実際にこのブログを紹介しながら、「このブログのコメントに個人情報を書かれたらどうなる？」といった説明をすることで、本人や他の生徒たちにも身近なことに感じてもらうことができた。
- ②学校間交流でのPRビデオの作成、公開はとても自信になったようである。その後も、「いばらき総文2014」の実行委員として長崎視察に行った際にも、取材の記録としてビデオを編集し関係する人たちへ公開するなど、自分の特技として活用している。

【報告者の気づきとエビデンス】

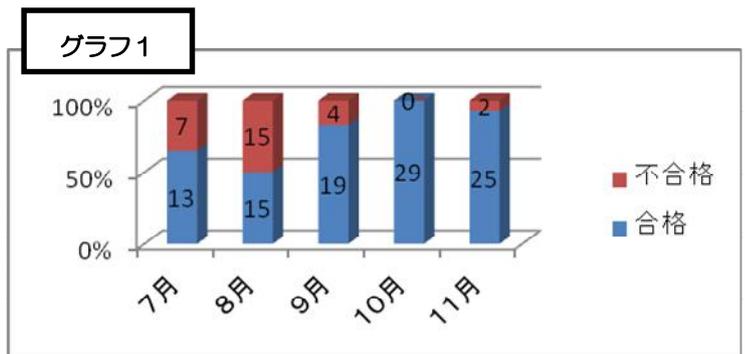
・主観的気づき

学習面、生活面、将来に向けて、3分野にカテゴリー分けをして、対象生徒の様々な生活場面にアプローチしてきた。それにより、2点気づいたこと。

- ①場面によっては、iPad を使うことにより自分のできることが増える、活躍の場が広がると自覚してきた。
- ②すべての場面において iPad を使うのではなく、使うと便利なこと、他の手段の方が効率がいいことなどを使い分けるようになってきている。

・エビデンス（具体的数値など）

学習面「漢検何級？」の学習では、当初の目的であった3級は6月の時点で合格圏内であったので、7月より準2級の学習に取り組んだ。右のグラフ1は、アプリの準2級の問題に挑戦した結果である。7月からのデータであるが、ほぼ毎日取り組めていること、合格率が緩やかに上昇していることから、ある一定の効果を上げることができたと考え



る。①結果が目に見えることによる達成感②すぐ調べられる、結果がわかる即時性③調べる時間の節約による効率の良さなどが要因として考えられる。またノートによる反復練習もプラスの要因であると考え

生活面の「カレンダー」「Evernote」「カメラ」の使用については、「カメラ」だけを継続して使用している。これは対象生徒が備忘録のツールとして、どこまでアプリに求めているのかだと考えられる。①簡単に撮影ができる②必要なときはスクロールして探せる③拡大機能が使える、この点を満たしていれば十分なのに、教師側は、通知機能や検索ができる方が利便性が高いからと考えて、押し付けてしまっていた結果だと思われる。

ビデオ編集に関しては、学校間交流2回、長崎視察の記録映像、父親に頼んでフライングディスクを自分が投げる姿を撮影しフォームの研究をするなど、映像が効果的に利用できる場面で、適切に使用することができている。

・その他エピソード（画像などを含めて）

①iPad を校内でたくさん使用する機会が増えてきたことにより、授業中に iPad 等の携帯情報端末を使用することに教員、児童生徒ともに抵抗がなくなってきたのを感じる。PR ビデオの撮影の際にも、周囲の生徒たちがみんなやってみたいと声をかけてきた。また、ホワイトボードの板書記録を撮る便利さに教員も生徒も気づき、対象の生徒以外でも、「写真撮っておいてください」と声をかけられるほどになった。

②いばらき総文2014の実行委員として、長崎視察の記録動画を作成するなど、自分の「特技」としてアピールする姿が見られるようになった。秋に行われたプレ大会（図：9）では、「iPad で、いばらき総文を盛り上げていきます」と発言するなど、意欲的に活動している。



図：9 プレ大会の様子